

開  
地  
正  
官

伺ノ趣聞届候事

明治十年七月三日

開拓使

近衛砲兵之内暴舉儀ニ付  
陸軍卿より届出相成ル条此旨為  
心得相違張事

明治十年八月二十四日

大政大臣三條實美

近衛砲兵隊徒黨之儀以局

今午後十一時近衛砲兵隊下士率了内徒黨  
ヲ止テ兵共ヲ毀テ聊カ發砲致シヨ者有之  
ヨ存直ニ討留且脱走ノ者ハ大抵捕縛致シ  
鎮定ニ及ヒ然ルニ暴發ノ原因ハ未確然雖  
致取調申シヨ得共右ハ人王ノ兵率共ノ暴發  
ニテ下士ニ於テハ暴發者ノ者無シヨ取敢此取  
以局申シ也

明治三十二年丁酉三月 陸軍少将 山縣有朋

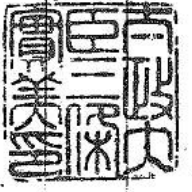
太政大臣ニ條實美殿

開拓使

其使管下札幌(裁判所)被置候條從前  
其使ニ於テ取扱候裁判及檢事事務并ニ  
函館裁判所ニ屬スル檢事ニ務共一切司法  
省ニ引継方可取計此旨相達候事

但該事務ニ關係ノ費用ハ自今大藏  
省ニ納付可致事

明治十一年九月三日 太政大臣三條實美



8